

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690100116		
法人名	(有)カスタネット		
事業所名	グループホーム衣笠シオン		
所在地	京都市北区衣笠赤阪町1-328		
自己評価作成日	令和5年2月20日	評価結果市町村受理日	令和5年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiogyosoCd=2690100116-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口町上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	令和5年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

衣笠シオンは京都市北区の金閣寺近くにあり、京都市内とはいえ緑豊かな自然に恵まれた環境です。周辺は閑静な住宅街に囲まれた穏やかで落ち着いた環境の中地域の方々とともに楽しく暮らしております。四季の移り変わりを感じながら「束縛のない自由度の高い暮らし」の実現を目指しています。又コロナ禍ではありますが施設内で出来る行事を企画してご利用者様との触れ合いを大切にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

夏には大文字と左大文字の送り火が見える衣笠山の麓に、利用者9名の当事業所があり、1階には小規模多機能型居宅介護事業所を併設しています。「誰もが当たり前豊かな人生を送ることが私たちの願いです」との使命感のもとで、3つの目標を定め、その一つに、「利用者からもスタッフからも、カスタネットじゃないとダメだと思ってもらえる会社」になることを表明されています。新型コロナウイルス発生時の教訓を生かし、密を避けての公園散歩、不思議不動産での花見、川端通りの花見ドライブ、しょうざん、鷹峯の紅葉ドライブ、また、事業所での花火大会、誕生日会、クリスマス会などを楽しんでいます。行事担当者は立候補制で、自らのアイデアで、利用者の喜ぶ顔が見られるのを励みにしています。一方、設立から10年目に入り、平均介護度3.6と、利用者の重度化が進んでいます。その中でも食事やおやつには非常に心を配っています。元料理店主のブロの手による食事のおいしさ、美しさ、食事メニューの多さ、手作りおやつは事業所が誇れる点です。また、食とともに心身機能の低下防止に取り組み、生活リハビリ、訪問マッサージ、口腔ケアの充実も図っています。気軽に相談できる主治医をはじめとする医療関係者との連携も良好で、24時間のサポート体制で看取りをされ、今年度は1名の利用者を看取られ、家族からの信頼も厚い事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ikesite riyousyano 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議等で理念を共有している。「職員が幸せでなければ利用者も幸せでない。職員が笑顔でなければ利用者を笑顔に出来ない」との理念を根底に置き、GHの理念「日々感謝の心で」をフロアに掲示している。	会社の理念及び事業所理念は2階フロアの対面キッチンの上の、目につきやすい場所に額入りで貼り出している。職員会議の折に理念に即した実践ができてきているかの確認をしている。	季刊紙「衣笠シオンだより」にグループホームの理念を載せ、事業所の姿勢を多くの方に知ってもらうようにされては如何でしょうか。ご一考願います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により引き続きつながりが薄い状況は変わらない。コロナ禍の規制緩和が進み再び地域との交流が深まれば良いと思っている。	町内会に入り、回覧板を回してはいるが、町内会自体もコロナ禍で活動を休止しているので、地域の情報は入ってこない。以前は地蔵盆や地域の清掃に参加し、事業所内も多くのボランティアなどで賑わっていたが、現在は休止している。時々地域の方の野菜の寄贈があり、食事に生かしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により出来ていない。以前は認知症カフェを通じて認知症の理解や支援の方法を地域の人々に向け活かす努力をしていた。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催している。地域包括、民生委員、ご家族様、地域住民の方に参加して頂きアドバイスを貰っている。	2か月に1度対面での運営推進会議を実施している。事業所の現状報告や、行事、消防訓練、事故・ヒヤリハットの報告などを行っている。仕事を持っておられ方が多く、異業種からの客観的な意見ももらえ、介護現場と違った視点でリスク管理を捉えることも出来ていたが、委員が変わられたので今後はまた、違う観点からの意見に期待をしている。議事録は家族全員と行政に郵送をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情やケアサービスの取り組みをお伝えしている。不明な点等が有れば担当者に聞く、確認するを心がけている。	新型コロナ陽性者発生の折には保健所の指導を受けて、PCR検査キットや抗原検査キットを受け取りに行った。原谷地域包括支援センター圏域の行方不明者探索ネットに加入し、集まりに参加している。事故報告の届け出や、各種問い合わせで日頃から行政と連絡を取っている。事業所の管理者が地域包括支援センターと連携し、原谷圏域サービス事業所連絡会の役員として活動している。	

京都府 グループホーム衣笠シオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束＝許されない事。と言う考えは全職員が共有出来ている。又、三か月に一度身体拘束委員会を開催し常に身体拘束をしないケアに取り組み実行している。	身体拘束の廃止に関する指針を備え、定期の委員会を開催し、身体拘束への検証と理解を深めている。全職員に専門業者のオンライン身体拘束研修を課し、個々のレベルや達成度により研修回数や内容を変えている。身体拘束チェック表による振り返りもしている。帰宅願望の強い方は、娘さんの写真を見せて話したり、静かに横になってもらうと落ち着かれる。天候に関係なく屋外に出たがる方は、職員と一緒に外出しかけると雨や雪の日は「寒いしやめる」と言われる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各職員オンライン研修で虐待防止について学んでいる。職員間や上司に虐待について相談しやすい環境作りが整っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関するマニュアルは事業所に有り閲覧出来る。成年後見制度については全職員が理解出来ているとは言い難い。今後知識を深める場を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い納得して頂いている。改定の際には文章で説明し理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や運営推進会議、電話対応の際に要望を聞き運営に反映させている。	コロナ禍で面会は減っているが、電話などで要望を聞き取り、本人と話してもらうなどしている。歩かせてほしいという意見や、現状を維持し、心身機能を低下させないようにとの要望があり、介護計画に取り入れて対応している。正月に自宅に連れて帰りたいという要望も実現している。家族の携帯電話に動画を送ることもある。オンライン面会は、利用者実感に湧かず反応が乏しいので、現在は予約制で対面での面会をおこなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ヒアリングや職員会議での発言の他に、日常的に職員間でコミュニケーションをとり、それぞれの職員が意見をしっかりと伝える透明性のある環境が整っている。	普段から、また、毎月の職員会議にも意見を述べる機会がある。管理者不在の間に決めた食事内容や体位の工夫なども、職員連絡帳や業務日誌で共有し、上司の事後承諾をもらうなど、現場での決定権が尊重されている。年2回の上司面談で異動希望や長期の休みの相談ができ、外国人技能実習生のうち1名は現在母国に帰っている。職員からも人間関係がよく、働きやすいと聞き取った。	

京都府 グループホーム衣笠シオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も常に現場で一緒に働き一人ひとりの実績や能力を把握している。承認制度の獲得の取り組みも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により外部研修は参加出来ていないが今年度からはオンライン動画サービス（メディパスアカデミー介護）を利用して全職員が研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所連絡会等で同業者との交流や勉強会に参加し情報を交換しサービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にはご家族や本人から綿密な聞き取りを行い、職員間で情報の共有を行い、本人の要望を満たせるように取り組んでいる。又、入所後は日常会話の中で本人の思いを汲み取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望は入所決定時、センター方式を活用し記入をお願いしている。要望にお答え出来ない事も何故出来ないかを説明し納得して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHだけが選択肢ではない為、専門職の視点で他の方法も提案してその方に合ったサービスを選択、利用して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を軸にその方の生活をサポートする立場ではあるが、共に生活を営む者として意識を持ち協力し合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の情報をご家族と共に共有する事で支援の充実を図っている。コロナ禍の中では電話や手紙等でご様子の変化をお伝えするようにしている。		

京都府 グループホーム衣笠シオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状家族様以外との接触は出来ていない。知人からの電話や手紙は取り次いでいる。今後規制が緩和されれば地域との関わりを増やして行きたい。	年4回発行の季刊誌衣笠シオン便りに写真入りで本人の様子をのせ、家族に普段の様子を知らせている。重度化して、以前の様に菜園の水遣りなどはできなくなった。室内では、干支にちなんだちぎり絵や季節の装飾を共同で制作している。編み物の得意な方はナイロンたわしを編み、裁縫の得意な方は他の利用者の繕い物もしてくれる。洗濯の得意な方はきれいに洗濯物を干して畳み、職員が雑にしていると注意を受けることもある。訪問理美容でヘアーカットをし、毛染めをする方もある。冠婚葬祭への参列や自宅での宿泊も、事業所に帰る時に検査は受けるが、可能としている。家族の許可を得て友人からの電話も取次いでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションの参加を促すことで利用者様同士が関われるように又、楽しめるように支援している。孤立しがちな利用者様を放っておかない様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の全ての方との関係が続いているとは言えない。しかし、死亡させた後もシオンとの関係を続けて行きたいと言って下さった方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望は出来るだけ尊重している。どうしても沿えない場合はきちんと説明をしている。意思疎通が困難な場合はカンファレンスで話し合いを行い本人本位で考えている。	本人からは生活の中で要望を聞き取っている。「あんパンが食べたい」など食べ物への要求が多い。自宅が気になる方は職員と一緒に自宅に行き、掃除をしている。外に出たい方は、介護計画に取り入れて散歩などを行っている。アセスメントの充実を図り、新規入所者や更新を迎えた方から徐々に、センター方式のシートの一部を併用し、本人理解を深める取り組みをしている。気づきや本人の様子は申し送りノートや毎月のカンファレンスで共有し、介護計画に反映させている。	介護ソフトが変わり、現在はソフトに慣れるのに職員が苦心している段階で、利用者の日々の様子の記述が希薄です。徐々に慣れて、支援経過の内容を膨らませ、記録から利用者や支援者の様子を「見える化」されるよう期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方については初期段階で本人や家族様に聞き取る様にしている。今年度からはセンター方式を用い活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報共有は意識的に行っている。状況の変化を見逃さず把握するようにしている。		

京都府 グループホーム衣笠シオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画が現状に合っているか職員会議で定期的に検討している。	ケアカンファレンスを毎月実施して介護計画の検証をしている。6ヶ月ごとのモニタリングをもとに、関係者でサービス担当者会議を開催し次の介護計画の原案を検討している。急な変化や入院、区分変更などがあれば、6か月以内にも介護計画を変更している。	介護計画には医師や訪問看護師、訪問マッサージ師、歯科医、歯科衛生士、病院送迎の家族なども加え、介護職以外に多くの方々が利用者の支援に関わっている事を明文化されるよう期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット端末へ記録が移行して簡素化されたが特変や事故は以前と同様きちんと記録して職員全員で共有している。介護計画にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や時期に応じたニーズに対応できるように外部サービスと連携している。引き続き連携を高めていく。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において地域資源が活用出来ているとは言い難い。地域包括等にアドバイスを求め色々な面で地域資源の活用方法を考えていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に訪問診療との連携を軸に柔軟に対応出来ている。家族様の希望で本施設の協力医以外に受診されている方もいる。(家族様同伴通院)	従来のかかりつけ医にかかっておられる1名は家族が通院に付き添い、事業所は必要な情報を家族に伝えている。他の方は協力医療機関の訪問診療を2週間ごとに受け、必要に応じて、同医療機関の皮膚科の往診もある。訪問看護も含め、24時間体制のサポートがある。歯科医と歯科衛生士が来所し、診察と口腔ケアを受けられる方がある。呑込みに問題のある利用者には、嚥下に詳しい歯科医の訪問もある。3箇所から訪問マッサージ師が入り、5名の方が施術を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化や気づきを記録し、訪問看護日には全職員が伝える内容を把握して看護師に相談している。(緊急時は24時間対応)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様の情報を速やかに共有できるようにファイリングしている。又退院後のケアについては病院、家族の三者でカンファレンスを行い本人にとって最適な選択が出来るようにしている。		

京都府 グループホーム衣笠シオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には看取りの指針に基づき契約時に説明をし納得して貰っている。何が利用者様にとって最も安楽なのかを考えつつ利用者様と家族様の希望を第一に優先し何度も話し合いを行っている。	「重度化及び看取りに関する指針」を整備し、職員はリモート研修をおこない、医師や訪問看護師のサポートを得て、看取りをおこなっている。状態変化の度に、医師・家族・事業所と話し合い、看取り計画を作成している。病院では面会がかなわないので、ホームでの看取りを希望され、退院して来られた方がいる。今年度は1名看取り、家族から感謝の言葉をもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルが有る事は全職員が周知しているが、実践力には不安が残る。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練については年二回の訓練を適切に行っている。(内一回は消防署立会いの元)しかし地域との協力体制はコロナ禍もあり築けていない。 前回ご指導頂いたが避難訓練のくりになり個別での訓練は実践出来ていない。	年2回の防火・防災・避難訓練のうち、8月の夜間訓練は消防署の立ち会いのもと、仮の通報訓練と避難、水消火器による消火訓練も実施した。土砂崩れの警戒区域ではあるが、避難先に行くまでに二次災害に会う恐れがあり、現在検討中である。代表が救急救命士の有資格者であり、危機管理には厳正である。訓練に参加できなかった職員はリモートで研修をしている。事業継続計画(BCP)も作成中であり、有事の地域との協力体制は今後の課題としている。備蓄は缶詰、レトル食品、水など1週間分、排尿を固めるジェル、カセットコンロなどが地下の倉庫にある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	オムツ交換や排泄時等のプライバシーは確保されるように配慮している。言葉がけにおいても丁寧且、優しい言葉がけを行っている。	高齢者虐待防止の研修はリモートでおこない、職員のレベルにより履修回数や内容を違えている。外国人技能実習生も日本語は理解でき、話し、同じ研修を受けている。呼称は姓で〇〇さんと呼ぶが、本人が下の名前で呼ぶのを好まれる場合は、下の名前で呼んでいる。会議で、日頃無意識にプライバシーを侵害していることがないか話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望を第一に考え自己決定できるように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の関係で難しい部分もあるが各職員が利用者様に寄り添えるように努めている。		

京都府 グループホーム衣笠シオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服を選べる方には常に自分で選べるように対応している。衣服の汚れや臭いにも十分注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベントに応じたメニューや季節を感じて貰えるように旬の食材を使うように心掛けている。後かたづけは出来る方にはお手伝いをして頂いている。	利用者の希望を入れて献立を作り、宅配業者から食材を購入している。たまに地域の方に頂いた野菜なども交えて、元料理店主や料理好きの職員が主に調理を担当している。調理に合った陶器に盛り付け、見た目や味のよい食事が品数も多く並んでいる。週に4日位は手作りおやつが提供されている。重度の方が多く、歯科医とも相談し、その方に合わせた食形態で食べやすくしている。正月はおせち、お雑煮、行事にはすき焼きや、きりたんぼ鍋、ちらし寿司などを楽しんでいる。敬老会には握りずしと茶碗蒸し、お吸い物の仕出しで祝った。フルーチェなどを作る利用者はいるが、他の食事準備はほとんどできなくなり、テーブル拭き、トレイ拭き、食器拭きなどを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は格利用者様に応じた対応ができている。食事量及び水分量も日々記録をして摂取して貰えるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個人に合った口腔ケアを行っている。又食前にケアが必要な方にも行っている。歯科医の訪問診療も定期的に受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく自立した排泄をして貰えるように誘導や声掛けを行っている。(オムツの方でもトイレでの排泄のほうが良いと思われる時は二人介助にて座って貰い排便して貰っている)	排泄が自立の方は2名、尿意便意が明らかな方が2名くらいで、オムツ対応の方もおられる。立位が取れず、2人介助の方もいるが、できるだけ気持ちよく過ごせるように、トイレでの排泄を支援している。夜間は自分で起きて来られる方には誘導、見守り、介助し、そうでない方には安眠を重視し、無理に起こさないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては運動や食事では解決できない部分もあるので医師と相談し薬剤を使い対応している。(下剤や浣腸)水分は摂ってもらえるように声掛けしている。		

京都府 グループホーム衣笠シオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望やタイミングに配慮し好みにも気を付けている。入浴剤を使ったり菖蒲湯や柚子湯等も行い喜んで貰っている。又、入浴を拒む時は人を換えて工夫して声掛けをしている。	週2~3回の入浴をしている。湯は一人ずつ入れ替え、入浴剤を好む方には入れ、湯温も本人の希望を聞いているが、皆熱いのを好まれるので健康面に配慮してややセーブしている。個人のもも使えるが、現在シャンプー類に拘る方はいないので、全員事業所のシャンプーを使っている。季節湯で気分を変えている。同性介助の希望があれば対応するが、希望はない。拒否の方も、「体重を測りに行こう」と誘うとすんなり浴室に行き、入浴される。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれのタイミングで就寝して貰っている。日中でも体調に応じて臥床するなど休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を用い誤与薬がないように二重確認を徹底している。それぞれが服用している薬についてはある程度理解している。又、利用者様が服用出来なくなった時は薬の形状等を医者や看護師に相談して対処している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で中々外出は出来ないが施設内でのレクリエーションで楽しんで貰えるようにしている。家事等についても一人ひとりに合った役割で有用感を持って貰えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策の為、外出の機会は減っているが天気の良い日は散歩に出かけたり、ドライブの機会は設けている。又、希望があれば本人の自宅に戻り郵便物の整理や掃除等を一緒に行う事もある。	コロナの陽性者発生以降慎重になり、外出は控え、静かな住宅地での近隣散歩や近くの公園への散歩などに留めている。四季の表情が豊かな立地にあり、近隣だけでもかなり桜や紅葉を楽しめる。他に車中ドライブで川端通の桜や鷹峯の紅葉を見に行くなどしている。病院帰りに家族と食事に行ったり、正月に帰宅される方もある。職員と必要なものを買うに行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内でお金を使う機会はない為、原則金銭の所持はない。但し必要な物があれば一緒に買い物に行き好みの物を選び自身で支払いをして貰う事もある。		

京都府 グループホーム衣笠シオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの受電は取り次いでいる。又希望があれば架電の手伝いもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節、イベントに応じた飾りつけをしており季節を感じて頂けるように工夫している。生活空間の整理整頓を心掛けている。但し感染症対策の為の換気に不快感を覚える方もいる。	広いリビングの窓からの採光で、室内は明るい。対面キッチンから、職員が作る料理の匂いが室内に満ち、豊かな気分になれる。大小2つのテーブルと食事介助者用の小テーブル、ソファがおかれている。お雛さまやきめ込み人形を飾り、落ち着いた雰囲気の中で、利用者は思い思いの過ごし方をされている。リビングの壁には、職員との合作の富士山とウサギの干支の大きな貼り絵がかかっている。椅子の足にはテニスボールを切って作った緩衝材を被せている。定期的に換気や清掃、消毒をおこない、事業所内は清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広めのソファでゆったりして貰えるようにしている。気の合う利用者様同士の席を近くにすることで会話の機会を増やすようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人ゆかりの物や好みの物を置いており、居心地良く感じて貰えるように工夫している。	居室入り口には職員手作りのはがき大の表札がかかり、室内には本人の個性を尊重したレイアウトが施されている。家族写真や、ぬいぐるみ、以前に作った人形を飾り、リビングの壁面装飾をもらい受けて、お雛様や紫陽花の貼り絵を飾っている方もある。家族が持ってこられた、優しいことばの綴られた色紙を置いている方もある。布団は持ち込みで、エアコン、ベッド、防災カーテンなどは予め備わっている。立位補助具を置いている方もある。重度化により、掃除やリネン交換は現在は殆ど職員のみでしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり、常に整理整頓を心掛け、同線には物を置かないようにしている。次月の行事や日付けも目立つ所に表示している。		